

ちば The People

ケメット・ジャパン社長

滝川 聡さん



たきかわ・さとし 1965年生まれ。名古屋出身。独協大学法学部卒。商社勤務などを経て、2002年ケメット・ジャパン設立。油絵や水彩画、ドラムなど多彩な趣味を持つ。

メット・ジャパンは滝川が「IT（情報技術）時代の『産業のコメ』になる」と見込んだ半導体向け研磨材

環境テーマ 社会貢献

「未来の世代が安心して暮らせる社会を残したい」。半導体向け研磨材を販売するケメット・ジャパン（千葉市）の社長、滝川聡（51）は社会の課題を事業で解決する社会起業家だ。環境を生涯のテーマに掲げ、事業の幅を広げている。

大学卒業後、貿易業を手掛けていた父の影響で、商社に入社した。果物を輸入し、キウイの販売で日本一になったこともあったが、

一貫性のない経営方針に嫌気がさし、転職を決意。移った会社ではアジアや欧米での勤務を経験したが、ビジョンが見えず、再び転職を決めた。

次の企業で出合ったのが電子部品の研磨材を取り扱う英ケメットだ。滝川は同

社の担当窓口として国内の販路を開拓するうちに、同道に乗った。だが、売上高社の日本法人を設立したい

の勤務を経験したが、再び転職を決めた。2002年に設立したケ

の販売を中心に、すぐに軌道に乗った。だが、売上高が10億円を超えたころに実施した社員の満足度調査の結果を見て、滝川はがくぜんとした。

8割を超えていると踏んだ満足度はたったの3割。それまではいかに稼ぎを増

広がる事業 課題解決願い

やすかという「利己」の気持が強い。ダイオキシンの発生も抑制持ちが強かったが、これを「環境悪化を食い止める」機に「利他」の精神を重んじようになった。社内に主力の研磨材販売はスマは「私は社員を幸せにする社長です」と記した自筆の書を書き、人材育成に力を及ぼす。増加で好調に推移する。だが「100年企業を目指し、

利他の気持ちに軸を据えたい」と語り、時代の変化に合わせ、世界で環境事業を展開する「総合環境商社」を目標とする。夢は途上で学校を設立すること。「お金でなく、環境悪化が深刻なモルデ教育を残したい」。社会起業家として未来の世界を担う子供たちに還元したいと願っている。

る仕組みで、焼却炉と異なる燃料が不要なのが特徴。敬称略（児玉章吾）